



ファイルサーバで利用されるソフトウェアの脆弱性対策について

トレンドマイクロ株式会社からの情報提供により、お知らせしています。

オープンソースソフトウェアである「Samba」において、重大な脆弱性が見つかりました。今後被害が拡大するおそれがあるため、至急、対策を実施してください。

Q:「Samba」とは？

Unix/Linux系OSでWindowsのネットワーク機能を実現する、オープンソースのソフトウェアです。

このSambaにより、Unix/Linux系OSとWindowsで相互にファイルサーバを運用することができます。

Q:危険性は？

共通脆弱性評価システム（CVSS）で9.9（最大レベル10.0）という最大レベルに近いスコアが付与されています。

Q:この脆弱性で何が起こるの？

遠隔で任意のコードを実行される可能性があります。実行されると、サーバが乗っ取られるなどの被害が出るおそれがあります。

Q:我が社も使っている？

Linux/Unix系OSとWindowsを併用している場合、Sambaを利用している可能性があります。ランサムウェア等の攻撃を受けるおそれがありますので、利用の有無を確認してください。

Q:対策は？

Sambaの開発チームが公開した4.13.17以降のバージョンにアップデートしてください。

運用上早期のアップデートが難しい場合は、セキュリティベンダー等に相談してください。

長崎県警察本部サイバー犯罪対策課
095-820-0110 (3451・3452)
メールで e103107@police.pref.nagasaki.jp

サイバー犯罪対策課
公式LINEアカウントで
情報配信中！
友だち登録お願いします！

@387ojopi

